

外科学第一

1 構 成 員

	平成 27 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
病院教授	0 人	
准教授	1 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	2 人	(2 人)
病院講師	1 人	
助教（うち病院籍）	4 人	(2 人)
診療助教	2 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	2 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	7 人	(0 人)
研究生	1 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	2 人	
合計	23 人	

2 教員の異動状況

椎谷 紀彦（教授）（H21.2.1～現職）

船井 和仁（准教授）（H22.4.1～H23.6.30 特任講師；H23.7.1～現職）

山下 克司（講師）（H15.1.1～現職）

和田 英俊（講師）（H21.4.1～現職）

小倉 廣之（病院講師）（H18.1.1～H19.3.31 助手；H19.4.1～助教；H24.6.1～現職）

佐藤 正範（助教）（H22.4.1～現職）

大倉 一宏（助教）（H20.9.1～H23.3.31 診療助教；H23.4.1～現職）

井手 佳美（助教）（H26.4.1～現職）

川瀬 晃和（助教）（H24.4.1～H26.3.31 診療助教；H26.4.1～現職）

高橋 大輔（診療助教）（H23.4.1～現職）

小野田 貴信（診療助教）（H26.4.1～現職）

野澤 雅之（救急部診療助教）（H25.10.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 26 年度
--	----------

(1) 原著論文数 (うち邦文のもの)	12 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	17.22	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数 (うち邦文のもの)	2 編	(2 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	2 編	(2 編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	5 編	(4 編)
そのインパクトファクターの合計	0.577	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Ohkura K, Shiiya N, Washiyama N, Yamashita K, Takahashi D, Tsuda K, Kando Y. Vertebral artery variations in thoracic aortic patients. Eur J Cardiothorac Surg. 2014 Jul;46(1):27-31. [3.048]
2. Tsuda K, Shiiya N, Takahashi D, Ohkura K, Yamashita K, Kando Y. Transoesophageal spinal cord stimulation for motor-evoked potentials monitoring: feasibility, safety and stability. Eur J Cardiothorac Surg. 2014 Dec 18. [3.048]
3. Y Ide, M. Waki, I Ishizaki, Y Nagata, F Yamazaki, T Hayasaka, N Masaki, K Ikegami, T Kondo, K Shibata, H Ogura, N Sanada, M Setou. Single cell lipidomics of SKBR-3 breast cancer cells by using time-of-flight secondary-ion mass spectrometry. Surface and Interface Analysis 2014, 46, 181-184 [1.39]
4. Ide Y, Waki M, Ishizaki I, Nagata Y, Masaki N, Sugiyama E, Kurabe N, Nicolaescu D, Yamazaki F, Hayasaka T, Ikegami K, Kondo T, Shibata K, Hiraide T, Taki Y, Ogura H, Shiiya N, Sanada N, Setou M. Single-cell time-of-flight secondary ion mass spectrometry reveals that human breast cancer stem cells have significantly lower content of palmitoleic acid compared to their counterpart non-stem cancer cells. Biochimie. 2014 Dec;107 Pt A:73-7. [3.123]
5. Tochikubo J, Adachi YU, Ejima T, Numaguchi A, Matsuda N, Sato S, Shiiya N. Landiolol reduces hemodynamic responses to bronchoscopy-assisted suctioning in intubated ICU patients. J Intensive Care. 2014 Jan 23;2(1):6. [0]

インパクトファクターの小計 [10.609]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Shinmura K, Kato H, Matsuura S, Inoue Y, Igarashi H, Nagura K, Nakamura S, Maruyama K, Tajima M, Funai K, Ogawa H, Tanahashi M, Niwa H, Sugimura H. A novel somatic FGFR3 mutation in primary lung cancer. Oncology reports. 31(3):1219-1224.2014.[2.191]

2. Shinmura K, Kahyo T, Kato H, Igarashi H, Matsuura S, Nakamura S, Kurachi K, Nakamura T, Ogawa H, Funai K, Tanahashi M, Niwa H, Sugimura H. RSPO fusion transcripts in colorectal cancer in Japanese population. Molecular biology reports. 2014. [1.958]
3. Shinmura K, Igarashi H, Kato H, Kawanishi Y, Inoue Y, Nakamura S, Ogawa H, Yamashita T, Kawase A, Funai K, Sugimura H. CLCA2 as a novel immunohistochemical marker for differential diagnosis of squamous cell carcinoma from adenocarcinoma of the lung. Dis Markers. 2014:619273.2014.[0]
4. Harada M, Kotake Y, Ohhata T, Kitagawa K, Niida H, Matsuura S, Funai K, Sugimura H, Suda T, Kitagawa M. YB-1 promotes transcription of cyclin D1 in human non-small-cell lung cancers. Genes to cells : devoted to molecular & cellular mechanisms. 19(6):504-516.2014. [0]
5. S Tajima, M Waki, H Nasu, Y Ide. Cystic apocrine ductal carcinoma in situ with increased EGFR expression, trisomy 7, and associated focal invasion. Med Mol Morphol, 2014, no 6, epub ahead of print [1.07]
6. Y Nagata, I Ishizaki, M. Waki, Y Ide, M A Hossen, K Ohnishi, N Sanada, M Setou. Gutaraldehyde fixation method for single-cell lipid analysis by time-of-flight secondary ion-mass. Spectrometry Surface and Interface Analysis 2014, 46, 185-188 [1.39]

インパクトファクターの小計 [6.609]

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. 吉田雅行, 荻野和功, 小倉廣之: 検診精密検査施設の精度管理と標準化について 政令市浜松市の医師会型乳がん検診における精密検査施設の精度管理の現状と課題 標準化は可能か?. 日本乳癌検診学会誌23: 200-206,2014

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 鷺山 直己, 椎谷 紀彦 【透析患者における冠動脈疾患と心臓弁膜症の診断と治療】 透析患者における冠動脈疾患 冠動脈バイパス術の適応とタイミング. 臨床透析(0910-5808)30 巻 8 号 Page985-989(2014.07) [0]
 2. 椎谷 紀彦, 高橋 大輔, 津田 和政 【いますぐ役立つ診断・治療デバイス】 心臓血管領域 神経誘発電位モニター. 胸部外科(0021-5252)67 巻 8 号 Page630-635(2014.07) [0]
- インパクトファクターの小計 [0]

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 椎谷紀彦. 今日の治療指針 2015 大動脈瘤 医学書院
 2. 椎谷紀彦. 今日の診断指針第7版 胸部大動脈瘤 医学書院
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. Washiyama N, Shiiya N, Yamashita K, Ohkura K, Takahashi D. Surgical treatment for saccular abdominal aortic aneurysms involving the renal artery origin: report of two cases. Ann Vasc Dis. 2014;7(1):60-3. [0]
 2. Sato M, Miyaki Y, Inamori K, Tochikubo J, Shido Y, Shiiya N, Wada H. Asynchronous abdomino-parasacral resection of a giant pelvic lipoma protruding to the left buttock. Int J Surg Case Rep. 2014;5(12):975-8. [0.577]
 3. Watanabe T, Wada H, Sato M, Miyaki Y, Shiiya N. Single-incision laparoscopic surgery for intersigmoid hernia. Case Rep Surg. 2014;2014:589649. [0]
 4. Sato M, Miyaki Y, Tochikubo J, Onoda T, Shiiya N, Wada H. Laparoscopic Splenectomy for a Wandering Spleen Complicating Gastric Varices: Report of a Case. Surgical Case Reports 2015, 1:3 [0]
 5. 細川優子, 小倉廣之, 瀧由美子, 松沼亮一, 井手佳美, 椎谷紀彦. 術後 24 年目に下咽頭転移をきたした晩期再発乳癌の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌(1345-2843)75 巻 7 号 Page1818-1823(2014.07) [0]
インパクトファクターの小計 [0.577]
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成 26 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 26 年度
(1) 文部科学省科学研究費	3 件 (325 万円)

(2) 厚生労働科学研究費	0件	(0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件	(0万円)
(4) 財団助成金	0件	(0万円)
(5) 受託研究または共同研究	14件	(336.4万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	20件	(994.5万円)

(1) 文部科学省科学研究費

椎谷紀彦 24592056 : 基盤研究、当該年度分 170 万円

佐藤正範 26462010 : 基盤研究、当該年度分 140 万円

小倉廣之(分担) : 15 万円

(2) 厚生労働科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

14 件 336 万 4 千円

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	8件
(2) シンポジウム発表数	0件	13件
(3) 学会座長回数	0件	14件
(4) 学会開催回数	0件	2件
(5) 学会役員等回数	0件	35件
(6) 一般演題発表数	4件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

口頭発表

1. Tsuda K, Norihiko Shiiya, Daisuke Takahasi, Kazuhiro Okura, Katsushi Yamashita, Yumi Kando.

Transesophageal spinal cord stimulation for motor evoked potentials monitoring: feasibility, safety and stability. EACTS 2014/10, Italy

ポスター発表

1. Takahashi D, Shiiya N, Tsuda K, Yamashita K, Washiyama N, Ohkura K, Kando Y. Six-channel

motor-evoked potentials with anal sphincter electrodes in aortic surgery. AATS Aortic Symposium. 2014/5, USA

2. Ogura H, Yoshizawa N, Yoshimoto K, Nasu H, Taki Y, Hosokawa Y, Matsunuma R, Ide Y, Yamaki E, Suzuki T, Oda M, Ueda Y, Yamashita Y, Sakahara H. The spectroscopic feature of the breast cancer. San Antonio Breast Cancer Symposium 2014/12 USA
3. Ide Y, Waki M, Ishizaki I, Nagata Y, Taki Y, Hosokawa Y, Matsunuma R, Ogura H, Shiiba N, Sanada N, Setou M. Single-cell TOF-SIMS reveals that human breast cancer stem cells have significantly lower content of palmitoleic acid compared to their counterpart non-stem cancer cells. San Antonio Breast Cancer Symposium 2014/12 USA

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

日本血管外科学会東海北陸地方会 主催、2015/2/28、浜松

第 21 回大動脈シンポジウム 主催、2014/7/19、静岡

2) 学会における特別講演・招待講演

椎谷紀彦

第 24 回東北心臓血管外科手術手技研究会 特別講演、2014/10/25、仙台

心臓血管外科サマースクール 教育講演、2014/8/23-4、神戸

第 116 回九州循環器地方会 教育講演、2014/6/28、福岡

山形心臓血管外科手術手技研究会 2014 特別講演、2014/03/14、山形

第 29 回日本血管外科学会近畿地方会 教育講演、2015/3/7、大阪

和田英俊

第 5 回北陸ヘルニア研究会 2014.05.31 金沢 (ランチョンセミナー)

第 76 回日本臨床外科学会総会 2014.11.20 郡山 (ティータイムレクチャー)

第 5 回日本腹腔鏡下ヘルニア手術手技研究集会 2014.08.23 札幌

3) シンポジウム発表

椎谷紀彦

- ・ TEVAR 後の open revision 手術：日本外科学会
- ・ 胸腹部大動脈瘤に対する最適な治療戦略とは：日本胸部外科学会
- ・ 慢性 A 型解離 (初回、redo) に対する基部+弓部置換と遠位大動脈置換の分割手術：大動脈シンポジウム

高橋大輔

- ・ 胸部大動脈疾患に対する open surgery と TEVAR—当科の現況と展望：日本臨床外科学会
- ・ TEVAR 時代の急性 B 型大動脈解離の治療戦略：日本心臓血管外科学会

神藤由美

- ・ 80 歳以上超高齢者の AS に対する AVR の検討：日本人工臓器学会

和田英俊

- ・ 5 part method による腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術：第 27 回日本内視鏡外科学会総会 盛岡
- ・ 細径鉗子を使用した腹腔鏡下ヘルニア手術の工夫と成績：第 76 回日本臨床外科学会総会 郡山
- ・ 当科で行った腹腔鏡下腹壁ヘルニア手術の検討：第 19 回東海内視鏡外科研究会 名古屋
佐藤正範
- ・ 小腸イレウスに対する単孔式腹腔鏡下手術の制限因子：第 27 回日本内視鏡外科学会総会 盛岡
野澤雅之
- ・ 腹腔鏡下診断による JHS 鼠径部ヘルニア分類：第 12 回日本ヘルニア学会 東京
- ・ 腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術（TAPP 法）の合併症に関する検討：第 12 回日本ヘルニア学会 東京
- ・ TAPP による腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術の利点：第 27 回日本内視鏡外科学会総会 盛岡

4) 座長をした学会名

椎谷紀彦

- ・ 日本胸部外科学会：卒後教育セミナー
- ・ 日本心臓血管外科学会：卒後教育セミナー、一般口演
- ・ 日本血管外科学会：医療安全講習会
- ・ 日本臨床外科学会：パネルディスカッション
- ・ 日本人工臓器学会：一般演題
- ・ 日本大動脈外科研究会：要望演題
- ・ 関西胸部外科学会：アフタヌーンティーセミナー

船井和仁

- ・ 第 31 回日本呼吸器外科学会、ホテル日航東京、2014/05/30

和田英俊

- ・ 第 12 回日本ヘルニア学会学術集会
- ・ 3rd Reduced Port Surgery Forum
- ・ 第 27 回日本内視鏡外科学会総会
- ・ 第 76 回日本臨床外科学会総会
- ・ 第 12 回 Needlescopic Surgery Meeting

大倉一宏

- ・ 日本血管外科学会東海北陸地方会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

椎谷紀彦

日本血管外科学会理事、医療安全委員長、将来構想副委員長、教育システム検討委員、外保連委員

日本心臓血管外科学会評議員、学会誌編集委員、学術教育委員

日本外科学会代議員

日本胸部外科学会評議員

日本人工臓器学会評議員

日本脈管学会評議員

日本循環器学会、循環器専門医編集委員、東海支部評議員

European Association for Cardio-Thoracic Surgery、2014・2015 annual meeting abstract reviewer

日本大動脈外科研究会常任世話人

血管外科アカデミー世話人

大動脈瘤シンポジウム世話人

Aortic valve academy 世話人

関西胸部外科学会評議員

東海心臓外科懇話会幹事

東海外科学会評議員

中部血管外科学会評議員

東海 endovascular symposium 世話人

東海重症心不全研究会幹事

船井和仁

日本外科学会：代議員

日本胸部外科学会：評議員

日本呼吸器外科学会：評議員

日本肺癌学会：評議員

和田英俊

日本内視鏡外科学会評議員、技術認定医審査委員 ガイドライン協力委員

日本臨床外科学会評議員

日本ヘルニア学会理事、保険診療委員長、評議員選定委員、学術用語委員、外保連実務委員

小切開・鏡視外科学会評議員

単孔式内視鏡外科研究会世話人

needlescopic surgery meeting 世話人

腹腔鏡下胆道手術研究会世話人

日本腹腔鏡下ヘルニア手術手技研究会世話人

日本ヘルニア学会東海地方会世話人

静岡内視鏡外科研究会代表幹事

山下克司

関西胸部外科学会：評議員

日本循環器学会：東海支部評議員

小倉廣之

日本乳癌学会：評議員/施設認定委員

日本乳癌検診学会：評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	1件	1件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

椎谷紀彦：日本心臓血管外科学会雑誌 編集委員、PubMed 登録なし、IF なし

(2) 外国の学術雑誌の編集

椎谷紀彦：Ann Vasc Dis（アジア血管外科学会、アジア静脈学会） Associate Editor、PubMed 登録有、IF 未

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

椎谷紀彦

Eur J Cardio-Thorac Surg（Europe） 9

Ann Vasc Dis（Japan） 4

Gen Thorac Cardiovasc Surg（Japan） 8

Circ J（Japan） 3

Surg Today（Japan） 2

Ann Thorac Cardiovasc Surg（Japan） 1

和田英俊

Asian Journal of Endoscopic Surgery（Japan） 1

和田英俊：Surgery Today（Japan） 1

和田英俊：日本ヘルニア学会誌（日本） 1

9 共同研究の実施状況

	平成 26 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	8 件
(3) 学内共同研究	0 件

(1) 国際共同研究

(2) 国内共同研究

- ・大動脈弁温存基部置換術レジストリー
- ・転移性肺腫瘍に対する部分切除例の再発様式に関する多施設共同研究
- ・高齢者(75 歳以上)の病理病期 II-III A 期非小細胞肺癌完全切除例に対するカルボプラチン/TS-1 による術後補助化学療法の feasibility study(エスカルゴ 002)
- ・Superior sulcus tumor に対する術前導入療法としての CDDP+TS-1+同時胸部放射線照射(66Gy)後の手術の有効性検証試験
- ・縦隔リンパ節転移を有する III A 期肺原発扁平上皮癌に対する術前導入療法としての CDDP+TS-1+同時胸部放射線照射 (45Gy) 後の手術の第 II 相試験
- ・縦隔リンパ節転移を有する III A 期非扁平上皮非小細胞肺癌に対する術前導入療法としての Cisplatin (CDDP) +Pemetrexed (PEM) +Bevacizumab (BEV)併用療法もしくは、CDDP+PEM+

- 同時胸部放射線照射 (45Gy)後の手術のランダム化比較第Ⅱ相試験
 - ・ EGFR-TKI 治療中に増悪が認められた EGFR 遺伝子変異を有する非小細胞肺癌に対する血漿中 cell free DNA を用いた EGFR T790M 変異検出の臨床的有用性試験
 - ・ 膣・消化管および肺・気管支・胸腺神経内分泌腫瘍の患者悉皆登録研究
- (3) 学内共同研究

10 産学共同研究

	平成 26 年度
産学共同研究	1 件

11 受賞

- (1) 国際的な授賞
- Hans Borst Award for Thoracic Aortic Surgery : EACTS
- (2) 外国からの授与
- (3) 国内での授賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 科学研究費にて経食道刺激運動誘発電位の研究を行い、海外の主要学会で発表し、award を取得した。
2. 外科切除標本灌流ファージディスプレイ法による腫瘍特異的血管内リガンドの探索. 26 年度は、第 1 例目の大腸がん患者からの切除標本を用いて、ファージ・ライブラリーの灌流実験を行った。灌流溶液による組織損傷およびこれに伴う病理診断への影響が懸念されていたため、病理専門医による組織学的検証が行われた。正常腸管において、粘膜固有層、粘膜下層および漿膜下層の高度浮腫が観察された。特に粘膜下層の浮腫は、膠原繊維の断裂像が認められた。しかし腫瘍部では浮腫性変化は認められず、腫瘍細胞の形態的評価は通常標本と同等に可能であった。したがって、少なくとも治療に影響する範囲での病理診断へ影響はないと考えられた。このことは、本研究を進めていく上での最も大きな倫理的問題が解決されたことを意味する。

第 1 例目の大腸がん患者から得られたサンプルを用いて、ファージの回収実験を行った。腫瘍部サンプルから 3.8×10^3 TU/mg、正常結腸部サンプルから 3.7×10^3 TU/mg のファージが回収された。このことから、外科組織標本中を還流させる実験系において、ファージが回収されることがわかった。ファージの還流液中では、 3.5×10^6 TU/ μ l のファージが、20ml \times 30 回洗浄後の還流液では 1.0×10^3 TU/ μ l のファージが存在していた。腫瘍部からの回収されたファージのうち、188 クロンの挿入配列を DNA シークエンスしたところ、そのすべてで異なる配列が得られた。また、腫瘍部と正常結腸部および洗浄液中のタイトレーションが概ね一致したことで、第 1 ラウンドの実験として機能したと考えている。

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

1. 経食道刺激運動誘発電位の開発

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

1. 経食道刺激運動誘発電位に関する特許申請と臨床応用を計画中である。
2. 外科切除標本灌流ファージディスプレイ法による腫瘍特異的血管内リガンドの探索. 本研究の目的が達成された場合、新規の血管内腫瘍標的分子候補が同定される。同定されたレセプター・リガンド候補については、抗腫瘍的な生物学的活性を必ずしも持つ必要はないことが、本研究が他の腫瘍特異的標的分子の研究と異なる点である。同定されたペプチドは、未同定だが腫瘍血管内腔に露出している分子に結合するため、腫瘍のアドレスとして利用できる。すなわち、抗腫瘍効果を表す物質（抗腫瘍薬、サイトカイン、血栓誘発剤、放射性元素など）や標識分子（蛍光分子、放射性元素など）などを運搬する分子として利用できるからである。したがって、同定されたペプチドの安全性が確認できれば、臨床応用しやすい。まず、標識分子を結合したペプチドによる画像診断への応用が可能となる。さらにその画像診断によって、臨床的に腫瘍特異性が示されれば、治療への応用へつながる。複数の配列のペプチドを使用することができれば、腫瘍特異性は相加的に高まることが予想される。このように、本研究は古典的な実験手法を取り入れながらも、今までにない新しいアプローチで行うものであり、腫瘍特異的なリガンドが単離できれば、臨床応用の可能性がある。

15 新聞, 雑誌等による報道